



日本学校ソーシャルワーク学会

第19回全国大会 in 大阪

大会要項 (第1報)

日程：2025年8月23日(土)・24日(日)

会場：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

(大阪府堺市中区学園町1番1号)

大会テーマ

「気づかない子どもの声、私たちにできること
～一歩踏み込む学校、そしてソーシャルワーク～」

<ご挨拶>

不登校の急増、ヤングケアラー、子どもの貧困などコロナ後にさらなる問題の可視化がなされ、さまざまに子どもが直面する課題が明らかになってきました。その数値の高さから、私たち大人は子どもたちの叫びを思っているよりもとらえられていない、子どもたちのニーズがとらえられていない現状があるのではないかと懸念します。子どもたちが気づかれないことで問題が大きくなることのないよう、大人である私たちが、専門職である学校で働くソーシャルワーカーが、すべての子どもを把握できる学校にて、教師とともにどうしていくべきなのでしょう。

学校のなかで様々にアプローチしていこうとすると、専門職不足、資源不足、教師やスクールソーシャルワーカー双方の理解不足にぶつかります。また、せっかく学校で作上げてきたことが、体制や人が変わることで0に戻ってしまいます。そんな繰り返しのなか、教師もスクールソーシャルワーカーも気力を失いがちになることも多くあります。

しかし、大きな方向性として、中央教育審議会に諮問が出されたように福祉の視点を活かそうという動きに拍車がかかっています。また、教育DX化への話しが、学習だけでなく、福祉課題に向かいつつあり、日本学術会議において取り挙げようとしています。

これらを糧に、越えなければならない課題に押しつぶされないよう、ミクロな視点だけでなく、俯瞰的に、違った角度から、ともに考えてみませんか。今回は予防という視点にフォーカスし、これらの問題を解決に向けて、学際的にも、企業をも巻き込んだ総合知としても議論したいと思います。是非、活発な議論に参加してください。

第19回全国大会 大会長
山野 則子(大阪公立大学)

☆大会プログラム☆

8月23日(土)事前研修

TIME	SUMMARY
9:30	受付開始
10:00	<p>【公開研修】「トラウマインフォームドな学校」 講師：岩切昌宏氏（大阪教育大学 准教授 精神科医） コーディネーター：佐々木千里氏（愛知県立大学大学院 非常勤講師）</p> <p><研修のねらい> 最近欧米では、しばしばトラウマインフォームドという言葉が使われるようになった。翻訳するとトラウマの理解に基づくということだが、これは、①トラウマの代表的な疾患であるPTSDの研究が進み、心身への影響が長らく続きやすいこと、②トラウマとなりうるような逆境的小児期体験（ACE）をした人が少なからずいて、その体験が多い人は、精神的な影響だけでなく、身体疾患になりやすく、社会的経済的にも問題を抱えやすいことがわかったこと、③女性運動の流れで、トラウマを抱える女性に対して、公的機関でも十分な対応がなされていないことなどが、背景にある。このように多くの人がトラウマによる影響を受けているため、トラウマの影響についてどのようなものを十分知っておく必要がある。</p> <p>多くの子どもが集う学校では、様々な不適応行動の背景にトラウマが潜んでいる場合があり、学校の先生、学校を支えるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは、子どもの背景にトラウマがあるかもしれないと考え、「チーム学校」として適切な対応をしなければならない。</p> <p>以上をふまえ、本研修では、トラウマについての理解がある学校とは、どういうものかを解説する。</p> <p>【受講資格】どなたでも可【定員】120名（先着順）【受講料】会員1000円・非会員2000円</p> <hr/> <p>【専門研修】「チェンジ・エージェント・システムとしての学校の理解とスクールソーシャルワーク実践」 講師：梅山佐和氏（東京学芸大学 講師） コーディネーター：福島史子氏（鳥取県教育委員会 スクールソーシャルワーカースーパーバイザー）</p> <p><研修のねらい> 理論を踏まえた実践に資するべく、2022年度より専門研修では「ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解」、それを基盤に「学校をシステムとしてとらえなおす」、「学校現場における社会的養護を受けて暮らす子どもたちへの支援の在り方」を取り上げてきた。そして今回はピンカス・ミナハンの4つのシステムの枠組みをふまえ「チェンジ・エージェント・システムとしての学校」に焦点を当てる。</p> <p>システムの変化を促すためには、ソーシャルワーカー単独ではなく、チェンジ・エージェント・システムを活用することが求められ、スクールソーシャルワーカーは、所属組織である学校や教育委員会の枠組みを活用することになる。そのため、スクールソーシャルワーク実践においては、まず当該システムをアセスメントすることにより状態や強みを正確に把握し、システムが本来の機能を発揮できない状態にある場合には、機能が回復・強化されるようにアプローチすることが求められる。</p> <p>学校をどのように理解し、協働するためにどのようにアプローチする必要があるのか。参加者が日々の実践、また視点や考え方を整理し、機能的なチェンジ・エージェント・システムとして学校と協働するスクールソーシャルワーク実践のあり方を考える機会とした。</p>
12:00	<p>【受講資格】学会員限定 【定員】120名 【受講料】 会員1000円</p>

※事前申し込みで定員超過となった場合には当日参加はできません。

※当日申込者は会員番号の入力が必要です（不明な場合は専門研修の受講はできません）

<事前研修申し込み方法> P6～「大会案内」の手順に従ってください。

8月23日(土)本大会 1日目

※シンポジウム会場のUホール受付にて企業の出展を初めて予定しています。

TIME	SUMMARY
12:30	受付開始
13:00	開会挨拶
13:05 13:30	問題提起 「今、学校に求められること」 山野 則子 (大阪公立大学教授)
13:30 14:15	基調講演 「教育格差とICT～DXで子どもを救う」 講師 藤村 裕一 (鳴門教育大学 教員養成DX推進機構長)
14:15 14:25	休憩
14:25 16:45	大会シンポジウム 「なかなかできない一歩踏み込んだ活動＝学校に変革を」 シンポジスト 山崎 修道 (公益財団法人 東京都医学総合研究所 副参事研究員) 太刀川 弘和 (筑波大学 教授) 當山 誠 (糸満市教育委員会 学校教育課 指導主事) 黒光 さおり (尼崎市スクールソーシャルワーカー) コーディネーター 山野則子 (大阪公立大学 教授)
17:00 17:45	年次総会 会員の皆さまは、ふるってご出席ください。
	情報交換会会場へ移動
18:00 20:00	情報交換会 会場：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス 大学生協

8月24日(日)本大会2日目

※書籍販売や、企業による出展を大会期間中予定しています。

TIME	SUMMARY
9:00	受付開始 9:00~9:20 発表者の準備時間
9:30	<p>口頭発表 発表は1演題あたり、発表時間20分、質疑応答15分計35分となります。</p> <p>発表申込締切6月15日(日) 24:00必着</p> <p>*口頭発表申込期間は、5月12日(月)~6月15日(日)と、事前参加申込時期と異なっていますので、ご注意ください。</p> <p>*発表希望の方は、後記の「口頭発表応募方法・留意事項」をご参照の上お申込みください。</p> <p>*演題報告後に総括討論を行います。</p>
12:00	休憩
13:00	<p>課題研究</p> <p>【第1分科会】「ヤングケアラー支援における学校と福祉の連携～現状と今後の課題～」 企画者：濱島淑恵(大阪公立大学 教授) 南多恵子(関西福祉科学大学 准教授)</p> <p><趣旨> 近年、ヤングケアラーに注目が集まるなか、国、地方自治体は実態調査を実施してきた。これにより一定の割合で家族のケアを担っている子ども・若者が存在していることが示され、学校生活、健康面、人間関係等において様々な困難を抱えている場合が少なくないことが確認されている。さらに、2024年6月には子ども若者育成支援推進法改正により、ヤングケアラーが支援対象として位置付けられ、現在、様々な地域において、ヤングケアラー支援が進められつつある。</p> <p>複合的な課題を抱えていることが多いヤングケアラーの支援においては、多機関・多職種連携が期待されており、特に学校と福祉の連携は必須と言える。「学校-福祉」間における気づきの共有と支援の協働がスムーズに包括的に行われることによって、ヤングケアラーに対する早期の適切な支援を展開することが可能となる。しかしながら、ヤングケアラー支援は始まったばかりであり、この点について課題は多い。</p> <p>本分科会では、ヤングケアラー支援をけん引してきた神戸市、NPO法人ふうせんの会の実践から、またイギリスにおける学校と民間支援団体との連携事例を参考にしながら、我が国における行政、民間によるヤングケアラー支援の実態とその到達点、学校と福祉の連携の現状と課題について検討する。また、どのような取り組みによって、課題をクリアすることが可能になるか、参加者とともに考える機会としたい。</p>

【第2分科会】「認知機能に障害のある子どもの教育保障とスクールソーシャルワーク—高次脳機能障害のある子どもの模擬事例を手がかりに考える—」

企画者：山中徹二（大阪人間科学大学 講師）

<趣旨>日本の特別支援教育の対象は、障害があることを要件としています。そのため、認知機能障害の疑いがある児童生徒であっても、障害認定を受けていない場合は、困難を抱えながらも、学校生活を過ごしている状況が見られる。たとえば、発達障害や軽度知的障害、高次脳機能障害の疑いのある子どもたちなどです。2005年の発達障害者支援法、2007年の特別支援教育の開始を機に、発達障害児童の学校生活上のサポートに関する研究は進んできた。しかし、高次脳機能障害のある子どもに対する支援は進んでいない。

そこで本企画では、近畿圏内の支援者へのヒアリング結果も踏まえながら、以下の論点について考えます。①高次脳機能障害の特徴とされる症状が子どもの学校生活において、どのような困りごととして生じてくるのかを知る、②必要な教育環境の調整を考える、③②を含めた子どもや家族への支援について、教員や学校に関する専門職（特に、スクールソーシャルワーカーに焦点をあてて）に期待される役割は何か、を検討したい。

【第3分科会】「スクールソーシャルワーカーに関する人材育成の取り組み（仮題）」

企画者：土井幸治（西九州大学 講師）

<趣旨>スクールソーシャルワーカー活用事業（以下、活用事業）開始後、スクールソーシャルワーカー（以下、SSWr）の全国的な配置が進み、活用事業以外のスクールソーシャルワーカー事業が実施され、生徒指導提要やいじめに関わるガイドライン等にSSWrとの連携が明記されるなど十分ではないにしろ一定の社会的認知が進んだといえる。一方、SSWrの理解が進み、SSWrの雇用は増加したが、初めてソーシャルワーカーとなった方や他分野から実践の場を学校に移すソーシャルワーカーもみられ、学校文化に馴染めない等の課題も存在する。日本におけるSSWrの人材育成について、スーパーバイザーの配置がある自治体も存在し、研究も進んでいるが、その実態には、地域差があり試行錯誤しながら取り組まれている。そこで本分科会では、SSWrが就職後、学校現場で成長し、自己の力を発揮できるような人材育成のあり方について、取り組みの報告をふまえ、参加者で協議していきたい。

【第4分科会】

「不登校支援とSSWの活動—校内教育支援センターの活用をめぐる—」

企画者 越智紀子（京都光華女子大学 教授）

<趣旨>本分科会は、SSWの実務に関係する制度を前提とした、SSWの活動をめぐる課題を検討するシリーズに位置づくものである。今回は、COCOLOプランのうち特に「校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）」に焦点をあてて検討する。校内教育支援センターは、単なる施設設置にとどまらず、学校の不登校支援の中核的役割が期待されるとされているが、その運用や体制の構築には課題が多くみられる。そこで本分科会では、報告者の取り組みをふまえ、校内教育支援センターに関するSSWの役割や連携に関して検討する機会としたい。

【第5分科会】「いじめ防止対策と子どもの自立支援—教育・福祉論的な視点と実践の枠組みから問い直す—」

企画者 鈴木庸裕（日本福祉大学 教授）

<趣旨>いじめ対策推進法施行から12年近くが経ち、生徒指導提要やいじめ重大事態のガイドラインの改訂が行われ、いじめ防止対策についてスクールソーシャルワーカーの資質や能力をめぐる、日常的な実践的課題の探究が求められる。しかし、被害・加害、周囲の子ども（保護者）の日常生活への回復や自立支援、そして学級、学校、教育委員会、自治体の各レベルでの「福祉的視点からの介入・参加」をめぐる内実づくりに困難さがみられる。

本課題研究分科会では、この困難さの解消やその気づきのために、いじめ問題への「司法的」なアプローチと「教育・福祉的」なアプローチの「かさなりとズレ」、および「懲戒的な対応」と「関係調整・修復的な対応」や「自立支援的な対応」との「かさなりとズレ」に着目し、ソーシャルワークの役割や学校教育の潜在的能力の回復・復権について実践的理論的に考えていきたい。

☆大会案内☆

1参加区分と費用

		会員	非会員	学生/大学院生	情報交換会
事前研修		【専門研修】 1,000円	【公開研修】 2,000円	会員・非会員に 準ずる	5,000円
		【公開研修】 1,000円			
本大会	早期登録 (4/1~6/30)	4,000円	5,000円	2,000円	
	通常登録 (7/1~8/24)	6,000円	6,000円	3,000円	

※専門研修・公開研修は、どちらか一つを選択してください（いずれも定員120名です）。

※専門研修・公開研修に当日申し込みの会員は会員番号が必要です。

※情報交換会（先着100名）は、定員になり次第受付を終了します。

※「学生/大学院生」で登録された方は、大会当日、受付の際に学生証を確認させていただきます。

※情報保障、託児を希望される方は、早期登録でお申し込みください。詳細は後記の「7」「8」をご確認ください。

2申し込みと参加費支払い方法

今回は「Peatix（ピーティックス）<https://peatix.com/>」というプラットフォームからの申し込みになります。申し込みと参加費の支払いが同時に行われます。

<< Peatix（ピーティックス）アカウントの作成方法 >>

新規にPeatixをご利用になる場合はアカウントの作成（無料）が必要になります。登録料や手数料などは一切発生しません。アカウントはPeatixホームページのトップページの右上「新規登録」をクリックすると表示される新規登録画面から作成できます。規約をご確認の上、メールアドレスもしくは外部サービスアカウント（Facebook/Twitter/Google/Apple）を使って作成してください。

第19回全国大会のチケットを購入する方法

早期登録期間は【2025年4月1日(火)~6月30日(月)】です。

- ①大会ホームページにあるPeatixのURL(4月上旬掲載予定)からアクセスし、イベントの日時、内容を確認し、「チケットを申し込む」のボタンをタップ
- ②チケットの枚数を選び、支払方法を選択後、ログインへ進む
※チケットの種類がいくつかありますので、お間違えの無いように選択してください
尚、チケットの金額は税込価格です
- ③アカウントを登録する
- ④アンケート申し込みフォームに回答を入力する
- ⑤支払い方法を選び、情報を入力する
- ⑥名前を入力する
- ⑦申し込みが完了すると、申し込みの完了をお知らせするメールが登録したメールに届きますのでご確認ください。また領収書はメールからダウンロードできます。

注1 チケットは、パソコンやスマートフォンから申し込みます。スマートフォン以外の電話やメールからは申し込みません。利用する端末や決済方法によって申し込み画面が異なります。ご希望の申し込み方法を確認してください。

注2 支払い方法はクレジットカード、デビットカード、プリペイドカード、コンビニ／ATM支払、PayPal／銀行口座振替払いの中から選べます。その際コンビニでの支払いは220円の手数料がかかります。お支払いを行う金融機関のATMによっては振込手数料や時間外手数料がかかる場合があります。

注3 イベント参加の一般的な申し込み方法はPeatixのホームページにある「参加者ヘルプ」(<https://help-attendee.peatix.com/>)をご参照ください。

<<当日のお申込みの場合>>

当日の申込みは受付にてご案内いたします。同様にPeatixからの申込みとなります。当日までにご自身で Peatix のアカウントを作成しておいていただくとスムーズに受付ができますので、ご準備いただきますようお願いいたします。大会受付のキャッシュレス化にご理解とご協力をお願いいたします。

3要旨集について

今大会では、ペーパーレス化のため、印刷物での要旨集の配布は行いません。

紙媒体を要する方は、大会ホームページに掲載されていますデータを各自、ダウンロード、印刷する等でご準備ください。

4昼食

会場にて食事をしていただくことは可能です。ゴミ等については各自で処理していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

大会当日、大阪公立大学内の学生食堂は営業しておりません。大学近隣にも飲食店がございますが、昼食を持参することをおすすめします。

5情報交換会について

日時：8月23日土曜日（本大会1日目）総会終了後

会場：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス 大学生協 定員：100名（先着）

なお、情報交換会のみでの参加はできません。定員となり次第、受付を終了しますのでご了承ください。

6宿泊の手配について

大会事務局では宿泊の手配は行っておりません。各自でご用意いただきますようお願いいたします。

同期間中、大阪・関西万博など大きなイベントが開催されますので、宿泊先の確保はお早めをお願いします。

7託児について

託児を実施しています。詳細が確定次第、大会HPや第2報にてご案内いたします。

ご利用を希望される方は、早期登録期間中に、申し込みフォームの指示に従って必要事項を明記ください。当日申し込みでのご利用はお受けしかねます。ご了承ください。

8情報保障について

大会1日目午後のプログラムでは「要約筆記」を行います。

早期登録期間中に、申し込みフォームの指示に従って必要事項を明記ください。

9駐車場について

中百舌鳥キャンパス内には十分な駐車スペースはありません。原則、公共交通機関でお越しください。なお、足が不自由等によりやむを得ずお車でお越しの方は、早期登録の上、申込フォームの備考欄にてその旨ご一報ください。

10クロークについて

クロークを会場に設けております。なお、貴重品は、紛失や破損の責任を負いかねますので、各自でお持ちください。

11会場アクセス



- ・南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m、徒歩7分。
- ・南海高野線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1000m、徒歩約13分。
- ・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」下車、南東へ約1000m、徒歩約13分。
- ・南海高野線「中百舌鳥駅」・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」から南海バス（北野田駅前行131、131-c、132系統）で約5分、「府立大学前」下車。
- ・南海本線「堺駅」から南海バス（北野田駅前行131、131-c、132系統）で約24分、JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス（北野田駅前行131、132、132-c系統）で約14分、「府立大学前」下車。



※詳細は大阪公立大学のホームページをご覧ください。

※バスの本数は限られておりますので、事前に南海バスの時刻表をご確認ください。

※原則として、お車でのご来学はご遠慮いただいております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

☆口頭発表応募方法・留意事項☆

口頭発表（研究発表・実践発表）の申し込みを希望する会員は、応募要領をご参照の上、口頭発表申込フォームからエントリーして、メールによる発表原稿等を不備のないように、6月15日（日）24:00必着でご応募ください。

*口頭発表申込受付期間：5月12日（月）～6月15日（日）24:00

応募要領

（1）発表者の応募資格

- 1)-1 応募の時点で本学会の会員資格を有する者（入会手続き中のもも含む）
 - 1)-2 2025年6月15日（日）までに2025年度までの学会費を納入済の者。
 - 2) 共同発表の場合は、1名でも1)に該当しない場合は、受理することはできません。
 - 3) 発表応募者（共同発表者を含む）は、早期登録及び大会参加費の振込を完了してください。
- ※1)から3)の条件を充たさない場合は、大会直前であっても発表を取り消すことがあります。

（2）発表の応募方法

- 1)以下の口頭発表申込フォーム(<https://x.gd/Nqh93>)より

エントリーいただき、【自動配信メール】を受け取っていることを確認して下さい。
なお、申込フォームには、①氏名、②所属、③連絡先（住所及び連絡可能な電話番号、メールアドレス）、④希望する発表形態（研究発表／実践発表）【下記(3)の3)参照】、⑤題目、⑥共同発表者氏名（単独の場合は不要）をご記入下さい。



- 2) 次に、大会事務局(E-mail:jsssw2025@gmail.com)に、件名を「口頭発表」とし、本文に①氏名、②所属を明記し、「要旨集掲載原稿」、「第19回大会口頭発表における要旨集掲載原稿提出用チェックリスト」を添付し、6月15日（日）24:00必着でご応募ください。

（3）発表における留意事項

- 1)口頭発表は、1会員1演題に限ります。そのため、応募については必ず筆頭発表者が行うようにしてください。
- 2)同一テーマによる発表は、「その(1)」「その(2)」までとします。ただし、内容が別の研究と認められる場合に限りま。また、当日の発表においても、各々が独立した発表として行うため、時間を連続して発表を続けることはできません。
- 3)口頭発表の形態は、自らの研究の成果を発表する「研究発表」と、自らの実践を基にして発表する「実践発表」の2種類とします。発表応募者は、発表の種類を選択したうえで要旨集掲載原稿を作成してください。
- 4)要旨集掲載原稿は学術的文献として公表されます。内容を十分に吟味したうえで、原則として、研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察等の各項に分けて記述してください。この形式で作成されていない原稿については、発表を認めない場合もあります。

- 5) 口頭発表の可否は、理事会の審査で決定し、審査結果については7月上旬頃までに大会事務局より各応募者へご連絡いたします。その際、要旨の内容により、発表の種類を変更していただく場合もあります。
- 6) 倫理的配慮については、後記の「日本学校ソーシャルワーク学会第19回大会口頭発表における倫理的配慮について」を読んで、十分に留意してください。
- 7) 「第19回全国大会口頭発表における要旨集掲載原稿提出用チェックリスト」のチェック項目を確認し、回答したチェックリストとともに原稿を提出してください。
- 8) 口頭発表が決定した後、急なキャンセル等をされないように留意してください。

(4) 要旨集掲載原稿の作成要領

1) 書式

「要旨集掲載原稿の書式」を参考にして、A4版2ページで作成してください。字数は目安として、Word・MS明朝にて本文3,358字(23字X146行)となります。PDFファイルは受理できませんのでご注意ください。本文とは別に、文頭6行を題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを挿入してください。なお、連名発表者がいる場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付けてください。また、本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載してください。

2) 図・表

図と表は最小限に止め、写真は使用しないでください。

3) 事例

事例等の記述については、プライバシー保護の観点から、関係者からの承諾等の基本的な倫理規定を遵守してください。なお、要旨には倫理的配慮の内容を明記してください。記載内容が不十分な場合や記述がない場合は、発表が採択されないことがあります。

(5) 当日の発表用原稿（レジュメ）の作成

1) 当日の発表用原稿（スライド等のレジュメ含む）のデータを7月31日（木）までに大会事務局(E-mail: jsssw2025@gmail.com)に、件名を「当日の発表用原稿」としてお送りください。大会ホームページに掲載する当日の発表用原稿（スライド等レジュメ含む）のファイル形式はPDF形式でお願いします。期日までに提出がない場合は発表辞退とみなします。要旨集掲載原稿および当日の発表用原稿（スライド等レジュメ含む）の他、8月1日（金）以降に追加資料がある方は、各自にて100部ご用意ください。なお、会場での印刷は、一切対応致しかねます。予めご了承ください。

(6) 当日発表にあたっての留意事項

- 1) 1演題の発表時間は、【発表時間20分質疑応答15分計35分】の予定です。なお、すべての口頭発表終了後、教室ごとに総括討論を行いますので、発表者はご自身の発表終了後も教室にお残りください。
- 2) パソコンを使用する場合には、原則として、大会事務局で用意したパソコンをご使用いただきます。
- 3) 発表用のデータは、各自のUSBメモリにて当日ご持参ください。8月24日（日）9:00~9:20を発表者の準備時間といたしますので、パソコンの操作確認等も含めて、事前のご対応をお願いいたします。
- 4) その他、当日の変更点等生じた際には、大会事務局より連絡いたします。

重 要

日本学校ソーシャルワーク学会 第19回大会口頭発表における倫理的配慮について

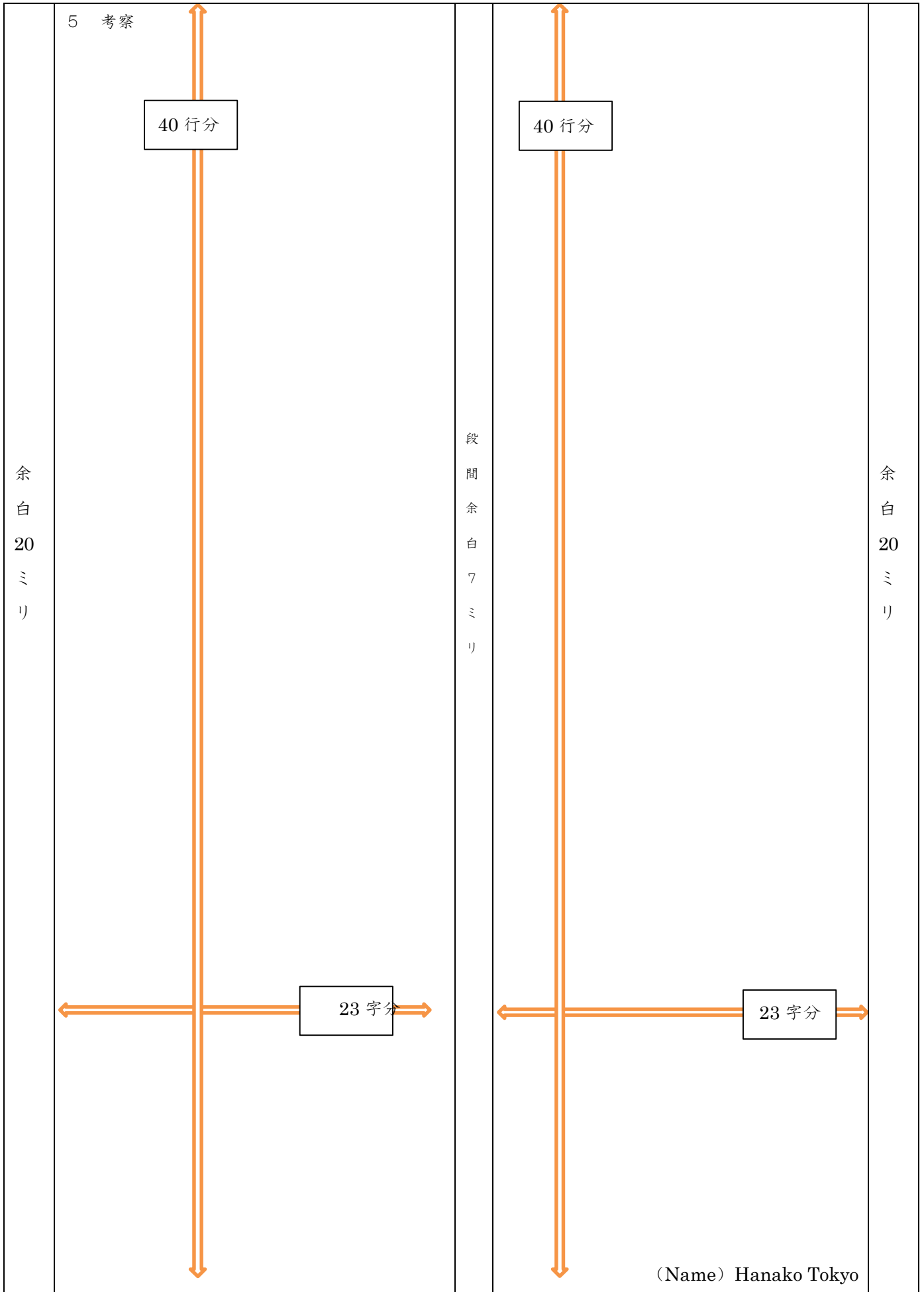
この配慮は、独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」
2015年2月、文部科学省大臣決定「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」
2015年8月、国立研究開発法人科学技術振興機構「研究者のみなさまへ－責任ある研究活動を目指して－」
2017年10月等を参考にして作成しております。口頭発表に向けて取り組む際には、必ずお読みください。

1. 研究データ・資料の開示、論理の展開、結論の提示等が、正確で客観的なものになっていますか。研究成果の発表には、研究者相互間の吟味・批判によって成り立つチェックシステムへの参入の意図があります。したがって、研究活動によって得られた成果は、可能な限り正確かつ客観的で検証可能なデータ・資料を提示しながら公開され、論理的な考察によって結論に到達していることが望まれます。
2. 先行研究等を調べて、発表しようとする研究の意義を明らかにしていますか。
すでに研究結果が明らかになっているテーマについて、新たな研究上の意義付けを行わずに繰り返して発表することは研究倫理に反します。先行する研究との関係において自らの研究を位置付けることが必要です。
3. 著作権等の侵害がないように配慮していますか。
文献から本文を引用する場合は、出典（文献）とともに引用箇所を明記してください。図・表の転載についても同様です。既存の尺度を使用する場合は、必要に応じて尺度の作成者から許諾を得たことを記載し、出典（文献）を明記してください。
4. 研究対象者等を特定されないように、個人情報に配慮していますか。
研究対象者の個人情報に配慮し、論文や発表要旨等の記述内容から研究対象者が特定できないようにすることが必要です。研究根拠を示すために、どうしても個人情報を掲載せざるを得ない場合には、当該利害関係者から掲載の承諾を得られていることを明記してください。
5. 研究への参加によって対象者への不利益がないように配慮していますか。
研究対象者への負担や不利益を避けるために配慮したこと等について記載することが望まれます。研究依頼の内容と方法（自由意思による同意等）、予測されるリスクと対策、研究データの取扱い・公表等、研究の全過程において、どのような倫理的配慮を行ったのかを簡潔に記載してください。
6. 法令が遵守されていますか。
研究の実施にあたっては、法令や関係規則が遵守されていなければなりません。

<h1>題目（主題）</h1> <p>題目（副題） 氏名 （所属） Key Word（3つまで）</p>		
1行あける		
<p>1 研究の目的</p> <p style="text-align: center;">33行分</p> <p>*文字の大きさは10ポイント を目安とする</p> <p>2 研究の方法</p> <p style="text-align: center;">23字分</p> <p>3 倫理的配慮</p>	段 間 余 白 7 ミ リ	<p>4 研究の結果</p> <p style="text-align: center;">40行分</p> <p style="text-align: center;">23字分</p>

余
白
20
ミ
リ

余
白
20
ミ
リ



第19回大会 口頭発表における要旨集掲載原稿提出用チェックリスト

- ・作成した原稿について、以下の項目を確認しながら回答欄にチェックしてください。
- ・本チェックリストをスキャンして、投稿原稿と一緒に提出してください。
- ・審査結果によっては、原稿の修正等をお願いする場合があります。
- ・審査結果によっては、発表を採択しない場合があります。ご了承ください。

1 エントリーの資格について

	チェック項目	回答 (レ)
1	発表者全員が、日本学校ソーシャルワーク学会の会員である	
2	発表者全員が、2025年度までの会費を滞りなく納入している	
3	発表者全員が、早期登録及び大会参加者の振込を完了している	

2 書式・様式について

	チェック項目	回答 (レ)
1	原稿は、発表原稿の書式を参考に作成した	
2	原稿は、A4版2ページで作成した	
3	原稿の字数は、Word・MS明朝にて本文 3,358字 (23字×146行) 以内である	
4	本文とは別に、文頭6行に、題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを挿入した	
5	連名発表者がいる場合、筆頭発表者氏名の前に○を付けた	
6	発表は、実践発表である	
7	発表は、研究発表である	
8	研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察等の各項に分けている	
9	本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載した	
10	図と表は最小限にとどめ、写真は使用していない	

3 倫理的配慮・個人情報の取り扱いについて

	チェック項目	回答 (レ)
1	研究にあたり、研究協力者や関係者の同意を得ている	
2	事例を使用している場合、個人が特定される記載はない	
3	学校名や所属名を記載している場合、掲載の了解を得ている	
4	個人が特定される内容を記載している場合、本人・保護者に掲載の了解を得ている	
5	個人等を記載している場合、本文に「掲載の了解を得ている」旨を明記した	
6	原稿の内容は、二重投稿・二重掲載ではない	
7	虚偽の記載をしていない	
8	研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察等の各項に分けている	
9	文章やデータの盗用をしていない (文中に引用した場合、文献等の記載がある)	
10	本文中に、個人情報保護等の倫理的配慮に関する記載をした	

第19回全国大会in大阪の専用ホームページは、近日公開予定です。

大会事務局

*学会事務局ではありませんのでご注意ください
ご質問やご不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。
E-mail : jsssw2025@gmail.com
(担当:田中佑典)